

25時

の

日月2



26歳 **女** の 言葉遊び

「君はどうして
そんなに僕の理想通りなんだい？
運命としか言い様がないよ！
心から愛してる。僕と結婚してくれ。」

心の中で
ついにこの時が来たと思った。
全て計算通り！
そうよね、ミスしなかったもの。

あなたは本当の私を知らないけど
でも、それで良いのよ。
私達は、本当に運命で
こうなるべきだったんだから。

「嬉しい・・・
私も愛してるわ。」

スムーズにいくように、私がリードしてたのよ。

最初に会った瞬間から、決めてたの。
絶対この人と結婚する！って。

だから、あなたの事を全て調べたわ。
その為なら手段を選ばなかった。
人も雇ったの。

あなたが好きな本や音楽、洋服
全部買い込んで予習した。
あなたの好きなお店で
偶然を装って出会うようにしたの。
理想通りの女性になって。

そうしたらあなた、
びっくりするくらい、面白い反応するんだもの。
楽しくて仕方なかったわ。

あなたの行動、好きな事
何でも知りたいから
今もずっと調べてるの。

これからも
ずっとあなたの理想でい続けるから
だからずっと私を愛してね。

ううん、あなたは一生私を愛するわ。あたしは何でも知ってるの。

あなたは どうして
そんなに完璧なんだろう

私の傷んだ所に
優しく溶け込んでいく 調合された甘い薬

あなたは人を寄せ付けないようにしているけど
私にとっては逆効果みたい

だって

あなたが自分を犠牲にしても

誰かを想っていること、私は知ってる

隠そうとしても、私には通用しないの

鼻の真ん中の小さなほくろも

耳に開けた大きな穴も

二の腕の綺麗な刺繍も

(すごく痛がったらしいけど)

感情が高ぶった時の激しさも

好きな事をする時の、横に伸びる顔も

話すのは得意じゃないくせに

相談された時の、諭すような口調も

弱さと向き合って 強くあろうとする姿も

もう・・・全てが愛しい

きっと、あなたと同じで

私は隠しきれないだろう
でも、それでいいの

あなたの肌に描かれた模様を

一つ一つ丁寧になぞりながら 眠りにつく！

そんな夢を見ている私を

あなたは どう思うかしら

きっと、変だって笑う

でもそんな反応すら愛しく感じるの

どうしようもないくらいに

あなたに酔っている

だからこのまま覚めさせないで

私の夢を、

現実にしてくれますか？



色鮮やかな、フルカラーの世界の中で
まるで私だけが モノクロームになったようだ
時代遅れの要らない部品

彼が結婚をしたと、ヒトツテに聞いた めでたく、彼女は妊娠中らしい
笑っちゃったよ、あたし
あれっ？ あの時、あたしのこと、愛してるって言いませんでしたっけ？

彼女にどれだけ責められても、白を切り通した、あたしの立場って何？
彼女より、お前が大切だって言ってた
あなたの本心は何処？

追加情報がまたヒトツテに入ってきた
浮気癖が治らないらしい。女遊びに勤しんでいると。

もう、、最低な奴だ。

でも、彼が他の女と、そういうことになっている事への苛立ちと
彼女だけを愛していない事への安堵感が
同時に押し寄せてきて
そんな事を思っている自分に腹が立った。

本当にムカつくけど・・・自分のこと、バカだって思うけど
彼のことを想ってしまう。
別れた後も。結婚してからも。今も淡い思い出なんかじゃない。

もう知る由はないけど
一つだけ、教えて欲しいことがある。

あの時、あの瞬間
ちゃんと私のこと愛してたかってこと。

その感情に嘘がないなら、私は一生、生きていける。

モノクロームから色をつけられても
あなたの余白だけは、ずっと空けたままだ。

精神安定剤は何処？

あなたをただ、救いたくて 救いたくて もどかしくて

あなたのことを こんなにも想っているのに

あなたは自分のことを 全然想っていない
自分のことを、存在を、否定しようとする

心の闇を見てしまう度に、きっと余計なお世話なのに
どうしても伝えたくて 携帯に手が伸びてしまう

『大丈夫？あなたは全然ダメなんかじゃない』

でも、私の声は届くことはなく 形式的な返事が来るの

『大丈夫だよ。心配かけてごめんね。』

だから、私はそれ以上踏み込めなくなるんだ

あなたの心は氷みたいだ 冷えきっている

許されるなら、あなたを思いきり抱き締めて
その不安を全て 無くしてしまえたらいいのに・・・

あなたには、彼女がいる

でも、私には理解できない
どうして、大切な人が、愛する人がいるのに
その間は生まれてくるの？
どうして、彼女はあなたの間を拭えないの？

その事実が、余計に私を混乱させて、動けなくする
どれだけあなたの事を考えても
求められているのは、私ではないから

私はただそっとあなたを想い続けて
あなたの間が晴れるのを、ずっと待っている。

そして
「あの時の自分は馬鹿だったよ」って、
大好きな笑顔で笑いかけてくれるのを、夢見ている

早く恋に発展させたいのなら・・・

『ねねさんは、人の顔とか話とか、よく覚えてますよね』
と、先日言われて
自分が心掛けている部分だったのよ

**あなたの目の前にいる私を
本当の私だと思わないで**

それは、もともと人と興味が
できるだけ、心に留めておきたいという心理が働いて
(それが好きな人だったら尚更・・・笑)

そんなに薄っぺらい女じゃないわ

自分が逆の立場で、何気なく
相手が覚えてくれていた
相手も嬉しいと思うから、恋愛は
きっかけは女が作る

**私は変わり続けているの
同じ事なんて一つもないのよ**

大体、一度会ったら忘れない、
顔と話の内容はセットで覚えている
女性には、そういう覚えることは得意だと思
う方が優位に立てる』

**あなたを好きな私は
明日にはもういない**

苦手な人がいたら、その人と会った後
手帳にでもメモしておくの良い。
出身や学校、食べ物の嗜好、趣味等・・・
あまり良くないのは
あまり良くない

**恋愛のルールなんて
簡単なものに当てはめないで**

うすれば
きう時に、ちょっとしたプレゼントや
「の際にも迷いがなくなるし、会話も弾む。
でも今のご時世・・・

**タイミングは【今】よ
あなたに見抜けるかしら**

い、〇〇さんは〇〇がお好きでしたよね？
話していた〇〇は、どうでしたか？
女の仕事
タイミングは【今】よ
あなたに見抜けるかしら

好意があることを
やんわり気付かせるのだ

勘の悪い男に興味はない

ねえ

四の五のはいいから

あたしと付き合おうよ

あなたには雨が降りすぎる

あたし、すごい晴れ女なの
ほんとだよ

天気予報は
あたしには必要ないの

あなたの上の
雲とか雨とか全部
消しちゃうから

だから

うん

って

言ってよ



あなたの手が私の頭に触れた
膝と膝が触れ合った

あんなに好きだった あなたのこと
触れてほしかった あなたの手

でも何も感じない

私の思いは
どこへ消えてしまったのだろう

もしも恋心があったなら
それはロマンティックすぎる再会だったのに・・・

私が偶然入った美容室
見覚えのある顔

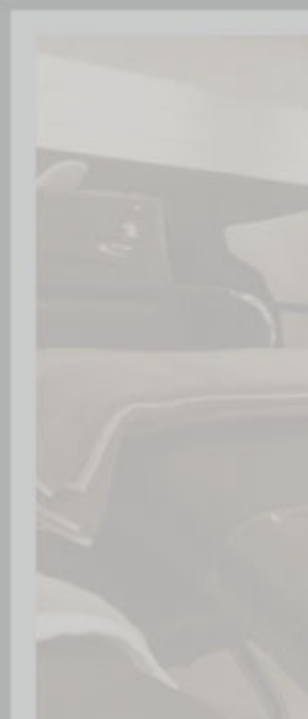
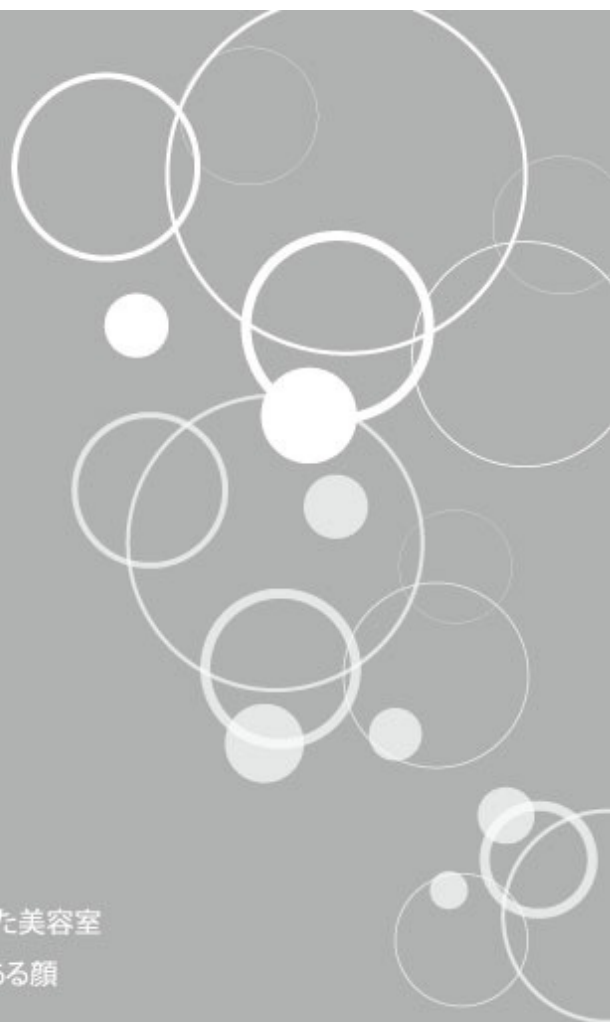
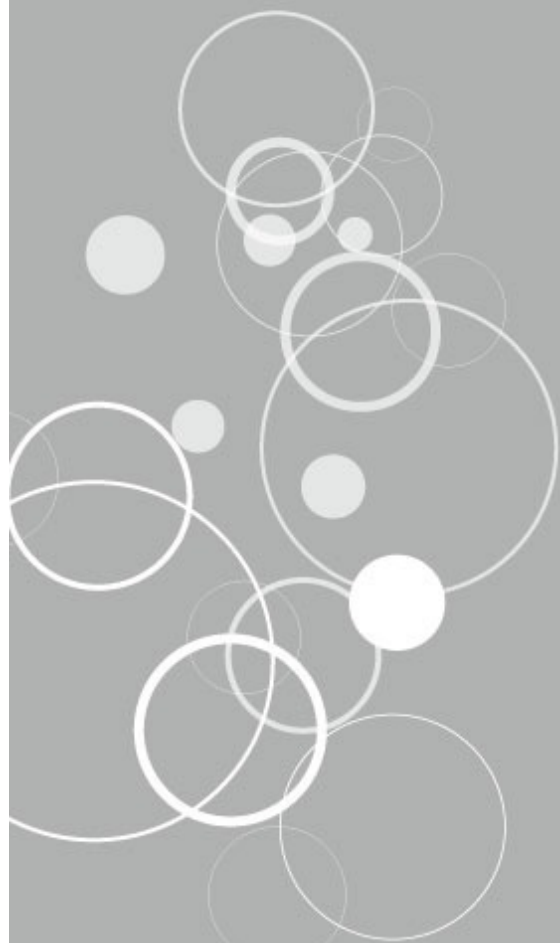
学生の時片思いしてた
彼だった
彼はいつの間にか
美容師になっていた

お互い大人になって
世間話を少しした

どうでもいい話だった

彼に触れられながら
何で好きだったんだろうと
ぼんやり考えた

流れていくシャンプーの音が
やけに頭に響いていた





あの子、生きてるのに

「消えたい」って言うの

そんなに消えたいなら

私に体、下さいな

もっと大事に生きてあげる

理性とか 論理トカに

覆われた

こっちの都合 構わない

旋律が引き出す

浮かぶライン

全てを破って

インク零した

止まらない

止めたくない

もう一人の私

掻き立てる

この波に

揺られていたい ——

